

國立組踊劇場(仮称) の概要

沖縄伝統芸能の保存振興と伝統文化を通じた
アジア・太平洋地域の交流を目指して



外観イメージパース(南東面)

1はじめに

一七九九年琉球王府の踊奉行玉城朝薰により誕生した組踊は、一九七二年に国の重要無形文化財に指定されました。が、組踊をはじめとする沖縄の伝統芸能の正統な継承、伝承者養成、組織的な記録保存や調査研究等を実施する施設がないことから、沖縄県及び地元関係者から建設要望がなされました。

国立組踊劇場(仮称。以下同じ。)は、沖縄政策協議会において沖縄振興策のプロジェクトの一つとして位置付けられ、文化庁は平成九年度から国立組踊劇場の在り方に関する調査研究協力者会議、十年度から国立組立組踊劇場の在り方に具体的な検討を進めました。

沖縄開発庁は平成九年度に国立組踊劇場の設立を沖縄振興策として位置づけ、十年度には基本設計費を予算計上し、これを受けて沖縄総合事務局では公募型プロポーザル方式で設計者を選定し、十年七月、高

松伸建築設計事務所に国立組踊劇場の基本設計業務を委託しました。平成十一年度には実施設計費を予算計上し、十一年七月、沖縄総合事務局で高松伸建築設計事務所に実施設計業務を委託しました。今後は、平成十五年度の開場を目指して建設工事を進めて行く予定です。

この度、実施設計がまとまりましたので、その概要を報告します。

2施設概要

(1)建設場所 沖縄県浦添市小瀬(こ渭)(地区)

(2)敷地面積 約一五〇〇〇m²(予定)

(3)構造・規模 鉄筋コンクリート造、一部プレスアーチコンクリート造地下二階地上三階建 延べ面積約四〇〇〇m²

(4)設計 平成十一年十一月～十五年三月
予定期 (株)高松伸建築設計事務所

(5)施工 平成十二年十一月～十五年三月
予定期

(1)設計趣向 「この劇場は、国的重要無形文化財「組踊」を中心とする沖縄伝統芸能の保存振興を図ることも、沖縄の地理的・歴史的な特性を活かし、伝統文化を通じたアジア・太平洋地域の交流の拠点となることを目的としています。

(2)外構計画 劇場の正面を南東向きとして施設計画

された組踊を中心とする沖縄伝統芸能の殿堂として、伝統芸能の公開、伝承者養成、調査研究、普及啓発等のための諸施設を計画しています。また、沖縄の歴史や風土に根ざした伝統的建築様式の美質を積極的に継承すると同時に、現代の建築に必要とされる機能や経済性を十分に検討し、現代的な建築的な併まいへと昇華することで、懐かしくそして新しい沖縄建築を創造します。

(3)2施設概要

(4)施設概要

(5)施設概要



メインホールイメージパース(オープンステージ時)



外観イメージパース(南東面)

1はじめに

配置して正面は野外芸能空間をまた沖縄の交通事情に配慮し可能な限り駐車場を確保しています。敷地周辺は、浦添市において劇場の整備に合わせ、公園・街路等の整備を計画しています。劇場を中心とした一体的な新しい地区景観の形成に向けて計画を進めています。

(意匠計画)

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



共通ロビーイメージパース(正面)

施工し、琉球石灰岩に近い色今(とない)をつ検討しています。また、工トランク部分の回廊は、その屋根仕上を琉球瓦のひいを用いた在来工法とし、床仕上は琉球石灰岩を使用するなど、沖縄らしさを表現しています。

メインホールの意匠は、壁、天井を曲面等のない矩形で構成すると共に、仕上を繩格子等による木仕上とし、全体に明るい色調にすることで伝統芸能の上演にふさわしい伝統的な空間を表現します。

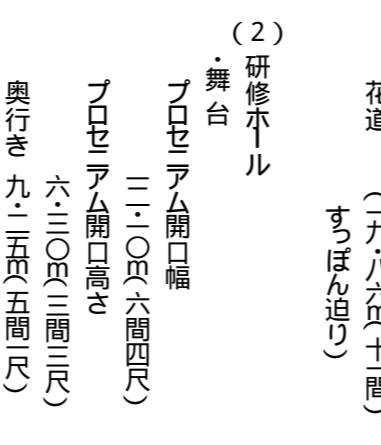
4劇場施設概要

(1)メインホール
(オープンステージ^(注1)とプロセニアムステージ^(注2))の両機能を備えた可変式舞台

花道 (一九・八・六尺(十一間)、すいばん迫り)

奥行き 一二・〇・六尺(六間四尺)
五・四五尺(二間)
七・一・七五尺(七間)
一・四・五尺(八間)

オーブンステージ時
花道設置時
舞台機構
プロセニアム開口幅
五七八席



共通ロビーイメージパース(ホワイエ)

(注1)オープンステージ…舞台が客席の中に張り出した形式で、緞帳などの幕を使わない一般的に見られる舞台と客席との間に額縁状の枠を持つた形式で、帳などの幕を用いる。

(注2)プロセニアムステージ…今日の劇場ホールで一般的に見られる舞台と客席との間に額縁状の枠を持つた形式で、緞帳などの幕を用いる。

配置して正面は野外芸能空間をまた沖縄の交通事情に配慮し可能な限り駐車場を確保しています。敷地周辺は、浦添市において劇場の整備に合わせ、公園・街路等の整備を計画しています。劇場を中心とした一体的な新しい地区景観の形成に向けて計画を進めています。

(意匠計画)

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張

配置図(概略図)



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張



案内図

外観は、琉球王朝時代の家屋や祭祀建築(神あしやぎ)に見られる形態をモチーフとして、両端(あまはじと呼ばれる大きな庇の張